

「15カ国語診療対訳表 Medical Check Sheet」

栃木インターナショナルライフライン(代表＝國井 修) 編

みさと健和病院・皮膚科

庄 司 道 子

本書を編んだ栃木インターナショナルライフライン(TILL:代表 國井 修氏)は3年前、年々増えてくる外国人の患者さんとのコミュニケーションを図るために、40頁余りの冊子「外国人医療 11ヶ国語対訳表」を作った。“とりあえず”栃木県内に配ろうと刷られた9千部は全国から注文が殺到し、隠れたベストセラーとなった。国の政策が“たてまえ”に終始し、現実的な対応を怠っている中、いかに多くの医療機関が医療費未払いのトラブルを抱えつつ、人道上患者を見殺しにするわけにはいかず、大きなジレンマに陥っているか、そして個々の医療人がいかに言葉の壁に困っているかを物語っている。

少し前、同じような目的で「病院のなかの英会話」(医学書院)を編んでいた私の診療机にもその1冊があった。ちょうどそのころ、私たちの

病院にも英語の通じない国からの患者さんが現れはじめていたから、時宜にかなった企画に共鳴を覚え意を強くした。

患者はたいてい日本語が少しわかる同胞に付き添われてくるから、利用する機会は多くはなかったが、例えばイランの人にペルシャ語の頁を示すと、母国語に巡り合った嬉しさと、医者が親身になってくれているという安堵からか決まってニコッと笑顔になった。“ことば”によって“ことば”を越えたものが生まれる思わぬ効用があった。

この度はこの冊子をもとに、フランス語・ベトナム語・ベンガル語・ウルドゥ語が加わって15カ国語、3百頁の堂々たる1冊が生まれた。見開きに「私は*＊語が分かります」と各国語で示され、そのまま辿っていくと自ずとその国語の項を開くことができる。字配りも大きく見やすく、

指でさしながら患者さんと一緒に眺めるのにとってもいい。会話にはカナが振られているから、無言劇に終わらずにすみそうだし、問診表・薬の飲み方・検査手術承諾書も付いていて、これは院内の各部署で早速活用できる。欲を言えば、病名や症状を説明する語彙がもう少し多ければと思うが、これ以上のボリュームでは使い勝手が悪くなるかもしれない。

それにしてもハングル・タイ語・タミール語・シンハラ語……アルファベットと漢字以外知らない眼には神秘的に美しく、じっと見ていると不思議の国に迷い込んだ気持ちになる。“国際化”の背後に広がる言語・文化の差の大きさ、興行きの深さを改めて知らされる。

● A4 頁320 1994 定価4,944円
(税込) ㊦400

医学書院 刊(㊦ 03-3817-5657)